

1. 対象

2000年1月～2020年6月に行われた職員検診結果とし、必要に応じて職員感染症検診残余検体を用いて院内感染対策上重要とされる感染性微生物に対する抗体などの追加測定および解析を行う。

2. 研究機関名

大阪大学医学部附属病院 感染制御部／医療技術部／臨床検査部

3. 目的

職員の各種感染症に対する抗体陽性率の把握

4. 方法

職員検診時に当院臨床検査部にて測定された肝炎マーカー、HIV、麻疹、水痘、風疹、ムンプス検査結果を用いて解析を行う。また、必要に応じて、職員感染症検診残余検体を用いて院内感染対策上重要とされている感染性微生物に対する抗体などの追加測定および解析を行う。なお、職員検診受診例とは当院事務部にて正式に受診申し込みを受け付けたものである。また、追加測定については2005～2020年度の職員検診の一部、新人検診（2000～2020年度）の一部のみとした。

5. 意義

1) 医学的意義

職員の感染性微生物に対する抗体陽性率を正確に調査することは、わが国における病院職員の感染症に対する防御能を把握する上で、さらには、今後の感染対策を実施する上でも重要であり、その意義は極めて大きいです。

2) 社会的意義

わが国において医療施設における感染性微生物に対する抗体陽性率の長期的な調査・報告は少ない。一方、当院における職員感染症検診は20年以上前から実施され、その対策方法もわが国ではトップレベルです。これらに関連した検査データは膨大である。これらのデータを詳細に解析し、職員の感染性微生物に対する防御能を把握することは当院のみならず、我が国の医療機関における感染対策に大きく貢献できると考えます。

6. 個人情報の扱い

「匿名化」を行い、個人情報を保護します。

7. 問い合わせ先

吉岡範（感染制御部；内線 5093）

8. 研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法

本研究は、介入を必要としない観察研究であるため、症例登録のいかんにかかわらず、治療に影響は全く及ぼしません。また、診断・治療等に必要な検査等のために採取される試料のうち、残余（医療廃棄物として処分されるもの）を使用しますので研究対象者に生じる負担やリスクはありません。症例登録をすること自体の参加の拒否については、主治医への口頭での意思表示、もしくは、電話での意思表示でお伝えいただくことができます。